

## 「折尾レトロ地区」創設についての陳情書

北九州市議会議長 佐々木健五 様

陳情者 住所 北九州市八幡西区折尾 4-10-1  
団体名 歴史遺産「北九州市レトロ」を創る会  
氏名 竹下 秀俊  
電話番号 090-4349-1241



### 趣旨

当会は、北九州市の歴史遺産を活かした『北九州市レトロ』を創り、北九州市を、日本を代表する観光地にしようと活動をしています。

『北九州市レトロ』を創るためには、東の玄関口「門司港レトロ」、「若松バンド」地域などと共に、西の玄関口にある、折尾のシンボル「折尾駅舎」、近代化産業遺産の「堀川運河」、「赤煉瓦高架橋」を活かして『折尾レトロ』を創ることが重要だと考えます。

折尾の街は、戦火を免れ、大正期や昭和期の街並み、歴史遺産が数多く残っています。

「折尾地区総合整備事業」においても「伝統と新しさの融合」を図る事が大切だと考えます。つきましては、下記の4つを要望いたします。

「折尾駅舎（中央2階建て部分）」を「仮改札口」として保存活用する。  
「市民トイレ」のデザインを、「赤煉瓦アーチ高架橋」または「西鉄電車折尾電停の駅舎」をイメージできるものにする。（解体された「赤煉瓦アーチ高架橋」の跡地）  
「堀川運河」に「五平太船」のオブジェを設置する。  
（JR折尾駅3番ホームに展示してあるようなもの）  
「折尾レトロ」の存在意義についての広報。

### 【 「折尾駅舎（中央2階建て部分）」を「仮改札口」として保存活用する 】

「折尾駅」は、JR九州の乗降客数、九州5位を誇る駅であり、「日本最古の立体交差駅」です。

「折尾駅舎の形」は、中間側が1階建て、鹿児島本線に隣接する側が2階建てになっており、このアンバランスな形こそが「立体交差駅」であることを証明する、『日本唯一』の駅舎です。

また、『九州の木造2階建て駅舎』は、「折尾駅」と「門司港駅」のみであり、「北九州市の玄関口」として、日本に誇るべき、『北九州市の記念碑的な駅舎』です。

そして、日本近代化産業の基幹を担った、後世に継承すべき『日本の重要な歴史遺産』であり、「社団法人土木学会」でも、『都道府県レベルの有形文化財級』の価値があると評し、多くの学識経験者や諸団体が、「折尾駅舎の保存活用」の活動を実施してきました。

しかしながら、活動の甲斐なく「折尾駅舎」は解体が予定され、待合室と棟飾りの一部のみが、将来、レプリカで再生するために、「折尾出張所」に保管されることになっています。

今年9月に、折尾駅東口の「仮改札口」が、折尾駅舎横のトイレの位置にできると聞きました。この位置に「仮改札口」ができるのであれば、折尾駅舎の『中央二階建て部分』を保存活用（資料1）するだけでなく、更に、下記のメリットがあります。

### 折尾駅舎（中央部）保存活用のメリット

- ・ 折尾のシンボル『折尾駅舎』として、保存活用できる。
- ・ 駅舎中央部の2階建て部分の正面、待合室の壁3面と天井などを保存活用できる（保管予定の部材の全てが、現状のまま残せる。）
- ・ 解体された部材を保管するための場所、増築費、移転費などが不要になる。
- ・ 仮改札口の、建築費などが不要になる。
- ・ 経費は、「曳き家」方式であれば、約3000万円で移動できる。（当会調べ）

### 【 「市民トイレのデザイン」を、「赤煉瓦アーチ高架橋」や「折尾電停の駅舎」をイメージできるものにする 】

1914年、西鉄電車が、折尾駅前広場に乗り入れるために、赤煉瓦アーチ高架橋(3連+6連)と折尾電停の駅舎が建設されました。(折尾駅側の3連高架橋は既に取り壊されています)

特に、黒崎側の3連は、「ねじりまんぼ」という特殊な工法が用いられ、日本最大級であり、現在、作れる人はいません。通常のトンネル工法と一緒に存在するのは折尾のみで、「社団法人土木学会」が、『有形文化財に値し、「土木技術史の教科書的存在」であると同時に、「北九州市の近代化の歴史の記念碑的な構造物』と評するほど、素晴らしい価値があります。

折尾駅側の3連の取り壊しに関しては、諸団体から「保存の要望書」が出されています。

当会は、保存の署名活動を実施し、11月18日に、861名の署名簿を提出すると共に、万が一、取り壊わされることになった場合、その赤煉瓦を活用して「場所の記憶」として活かしてほしいとの要望を、折尾総合整備事務所に提出しました。(資料2)

9月の高架橋の取り壊し説明会の時に、跡地を「市民トイレ」と「駐車場」に活用するとの説明がありました。「市民トイレ」を、「赤煉瓦アーチ高架橋」や「西鉄折尾電停の駅舎」をイメージさせるものにデザインすることにより、現在の「ねじりまんぼ」のある「赤煉瓦アーチ高架橋」3連(保存活用を検討中)とあわせて、当初の9連をイメージでき、「折尾レトロ」にふさわしい景観になります。

#### 【「堀川運河」に「五平太船」のオブジェを設置する。】

「堀川運河」は、自然に流れる河川と違い、人工的に造られた河川で、189年の歳月をかけて掘られた『運河』であり、駅前に流れる運河は、日本唯一です。筑豊の石炭を「五平太船」で八幡製鐵所に運び、日本の近代化産業の発展に寄与したことで「近代化産業遺産」に認定されました。

折尾周辺の小学生は、授業で「堀川運河」を学び、見学に訪れますので、「堀川運河」に「五平太船のオブジェ」を設置することにより、歴史を身近に感じられるようになります。

#### 【「折尾レトロ」の存在意義についての広報】

折尾は、遠賀の都だけでなく、交通の要所でもあったため、昔を懐かしむ人が数多くいます。

折尾周辺は、学園都市として発展し、折尾駅を最寄り駅とする、5校の高校と9校の大学があります。将来を担う子供達に、歴史や文化、先人の知恵や想いを知ってもらい、生きた教科書的な街でもあります。

歴史遺産を紹介する看板、「折尾レトロ」の観光案内、街歩きマップなどを作り、広報することで、開発で衰退した折尾の街を活性化することもできます。(資料3、資料4)



「折尾レトロ」創設について、ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

以上

#### 参考資料

- 資料1 . 折尾のシンボル『折尾駅舎』を保存活用しよう！
- 資料2 . 『折尾・赤煉瓦アーチ高架橋』の保存活用を求める要望書
- 資料3 . 折尾駅前広場の歴史遺産
- 資料4 . 折尾駅周辺の歴史遺産と街並み